

6月は、身近な環境について考える「環境月間」です。日常生活や健康、公害などが含まれる「生活環境」、動植物や大気・水などが含まれる「自然環境」、省エネルギーや地球温暖化問題などが含まれる「地球環境」など環境は非常に広い範囲におよびます。環境問題の多くは、私たちの日常生活や経済活動に起因していて、良好な環境を保っていくためには、環境への影響をできる限り軽減する必要があります。今回は、私たちにとって、最も身近な環境問題である「ごみ」を減らすためにできることを考えます。

問合せ先 環境課廃棄物対策グループ (☎82-8081)
環境創造グループ (☎96-8095)

先に
あることが
する

「4R」は、ごみを減らすキーワード!

「4R」とは、Refuse「リフューズ(断る)」、Reduce「リデュース(減らす)」、Reuse「リユース(繰り返し使う)」、Recycle「リサイクル(再資源化する)」の4つの英語の頭文字をとった、ごみを減らすための行動を示すキーワードです。

「リサイクル」は4番目!「4R」の優先順位!

「リサイクル」と聞くと「ごみを減らす手段」の一番大切なことと思ってしまうがちですが「4R」の行動では、最後の4番目です。「リサイクル」はとても大切なことですが、**ごみになるものを家に持ち込む前に不要なものを断る=「リフューズ」**が最も大切です。そして、使い捨てを減らす=「リデュース」、繰り返し使う=「リユース」を心掛けることが、ごみを減らすことにつながります。



6月は!
「環境」

~ 4Rとごみの減量

最初!

1番目の
R

Refuse リフューズ：断る

ごみになるものは、断ろう!

- マイバッグを持ち歩いて、レジ袋や過剰な包装を断る
- 割りばしや、フォーク・スプーンなどの使い捨て製品を断る など



2番目の
R

Reduce リデュース：減らす

ごみになるものを減らそう!

- 詰め替えできる商品を利用する
- 食料品は食べきれぬ量だけを計画的に買う など



3番目の
R

Reuse リユース：繰り返し使う

使えるものは、繰り返し使おう!

- 何度も使える容器を選ぶ
- バザーなどで、ほかの人に使ってもらおう など



最後!
4番目の
R

Recycle リサイクル：再資源化する

正しく分別して、有効活用しよう!

- 資源になるものは、きちんと分別する
- 再生原料を使っている商品を選ぶ など

ごみ減量はSDGs※の達成にもつながっています!

SDGsは、世界の平和や発展のために国際連合で決められた「持続可能な開発目標」のことで、世界中のみんなが豊かで幸せになるように、私たちが取り組む17の目標があります。

私たちの身近な課題である「ごみ減量」は、SDGsにつながる取り組みです。

※SDGs(エス・ディー・ジーズ)…「Sustainable Development Goals」の略称



1 プラスチックごみを減らそう!

令和4年4月、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行され、国民や事業者などがプラスチックを資源として上手に利用するための取り組みを行っていくことが定められました。

プラスチックは便利な素材ですが、原料である石油の発掘と輸送、製造と生産、廃棄に至るまでの過程で二酸化炭素が排出され、地球温暖化の原因のひとつになっています。また、年間800万トンのプラスチックごみが海に流れている海洋プラスチック問題や、細くなったプラスチックが海の生き物の体内に入り込んでしまうマイクロプラスチック問題など、さまざまな問題につながっています。

マイバッグやマイボトルを持ち歩くようにする、シャンプーや洗剤などは詰め替えて利用するなど、身近なところからプラスチックごみを減らしていきましょう。



リサイクル
よりも



月間
について考える～

2 食品ロスを削減しよう!

世界には十分に食事がとれず、飢餓に苦しむ人が約8億人いるといわれており、食料の国際援助量は420万トンにもなります。

一方で日本では、年間約570万トンの食品がまだ食べられるのに捨てられています。食品の「食べきり」、食材の「使いきり」を実践しましょう。



3 古着は工夫して繰り返し使おう!

子ども服はすぐにサイズが合わなくなったり、子どもの好みが変わったり、デザインや形状による流行の変化が激しく、他の衣服に比べて古着が発生しやすいのが実情です。「まだ使えるのに捨てるのはもったいない」という気持ちで、人に譲る、寄付をするなどして、繰り返し使う工夫をしましょう。



4 古紙を分別・資源化しよう!

環境センターで溶融処理するごみの約40%が紙ごみです。新聞や雑誌、ダンボールはリサイクルが進んでいますが、雑がみ(お菓子の箱やトイレトーパーの芯、紙袋、コピー用紙など)はあまり進んでいません。家庭から出るこれらの古紙は、地域の集積所に出したり、集団回収を活用したりするなどリサイクルに取り組みましょう。

